

記事掲載：2022年5月

翻訳：2022年7月

ECW がエチオピア北部での緊急支援活動に 200 万ドルの追加助成を決定 エチオピアで現在行われている活動への資金拠出総額は 3,000 万ドル超に



©Education Cannot Wait

背景

2020年11月、エチオピア北部にて連邦政府軍とティグライ人民解放戦線（TPLF）の軍事衝突が発生し、その影響は現在も続いています。この紛争によって、子どもや若者を含む多くの避難民が生まれました。2022年に入ってから激しい戦闘は沈静化の方向ではあるものの、1月には学校や保健医療施設がある国内避難民・難民キャンプへの空爆など、子どもの権利を脅かす暴力が行われました。

ECW の支援により、UNHCR と地元の戦略的パートナーは、アフール、アムハラ、ティグライ州で避難民や紛争の影響を受けている 2 万人の難民、ホストコミュニティの子どもや若者に支援を届けます。

エチオピア北部のアフール、アムハラ、ティグライの各地域で起きている紛争は、子どもや若者を学校から遠ざけ、人道的ニーズに拍車をかけています。この危機に対応するため、[ECW](#) は、200 万ドルの第 1 次緊急対応助成金を発表しました。この助成金は、2 万人以上の難民・避難民とホストコミュニティの子どもや若者の支援に活用されます。これにより、現在[エチオピア](#)で行われている活動に対する ECW の資金拠出総額は 3,000 万ドルを超えることになりました。

この助成金による事業は 12 ヶ月にわたって実施される予定であり、[UNHCR](#) と地元の戦略的パートナーによって、難民キャンプとその周辺、およびエチオピア北部の居住地で、就学前教育、初等教育、速習型学習プログラム、中等教育の支援が実施されます。支援は主にアフールのアイサイトとセルド、アムハラのアレムワクサイト、ティグライのマイアイニとアディハルシュのキャンプにいる難民を対象とする予定です。支援対象者の約 62%が少女で、10%が障害を持つ子どもたちです。

新型コロナウイルス感染症の流行と紛争の両方によって、アフール、アムハラ、ティグライ州の子どもや若者は教育の機会を奪われています。現在までに、エチオピアで既に学校に入学している難民の子どもや若者の約 13%が学校に戻ることができていません。

「難民やホストコミュニティの子どもや若者たちは、安全で保護された学習環境を差し迫って必要としています。子どもや若者たちは、武装集団への徴用、人身売買、過激派になること、搾取されることといった高いリスクに直面しています。彼らはすでに家を失い、愛する人をも失っています。彼らが学校から退学し、最後の希望である、疎外や苦しみから立ち上がる力を与える教育を失うことは、許されてはいけません」と、緊急時や長期化する危機における教育のための国際的な基金である ECW の事務局長、ヤスミン・シェリフは話します。

「教育は、子どもたちを保護し、平穏な生活に戻るための支援となります。さらに、効果的な学習のために不可欠な、子どもたちの精神的・心理的健康にも有益です。ECW の貴重な資金は、被災した子どもたちの教育ニーズにできるだけ早く対応するための介入を支援し、エチオピア北部の避難民コミュニティとホストコミュニティの共存強化に大きく貢献するでしょう」と、UNHCR エチオピア事務所代表のママドゥ・ディアン・バルデは述べています。

ECW による資金拠出は、緊急事態の影響を受けた子どもたちが安全で保護され、かつジェンダーに配慮した学習環境を利用できるよう、仮設学習スペースやトイレを含む教室の建設と修復をさらに支援します。革新的な現金給付は、学校復帰のための幅広い取組みの一環として、家族が子どもを学校に再び通わせるためのインセンティブとなります。

また、このプログラムには、教員や学校管理者の採用やトレーニング、個別の学習教材の提供も含まれています。教員の研修では、教科の知識、カリキュラム、計画、教育学に関するトピックを取り上げる予定です。今回新たに拠出される資金は、緊急事態の影響を受けた少女、少年、障害のある子どもたちに、ジェンダーや危機に配慮した教育を提供するための学校とコミュニティの能力強化も支援します。

この新しい資金は、2021年4月に発表された ECW の 100 万ドルのティグライ州への支援と、同国で資金を活用して進行中の[複数年レジリエンスプログラム](#)をふまえて追加拠出されたものです。

【翻訳前の記事（英語）】

<https://www.educationcannotwait.org/news-stories/press-releases/Ethiopia-FER-extension>